

宇部市成長産業推進協議会 運営委員会 議事録

1 日時 令和8年8月5日（水）13：30 ～ 15：15

2 場所 宇部市役所市民交流棟2階 C・D・E 会議室

3 出席者（敬称略）

<運営委員>

	所属・役職	氏 名	備 考
商工団体	宇部商工会議所 会頭	久 次 幸 夫	
企 業	U B E 株式会社 常務執行役員	高 瀬 太	
	セントラル硝子株式会社 宇部工場長	佐 藤 敬 二	
	N T T 西日本株式会社 山口支店長	東 淳 史	新 任（欠席）
	株式会社ヤナギヤ 代表取締役社長	柳 屋 芳 雄	（欠席）
	ユーピーアール株式会社 代表取締役 社長執行役員	酒 田 義 矢	（欠席）
大学等	国立大学法人山口大学 大学院医学系研究科長・医学部長	木 村 和 博	新 任
	国立大学法人山口大学 大学院創成科学研究科長・工学部長	鈴 木 素 之	新 任
	国立大学法人山口大学 情報学部長	山 口 真 悟	新 任 (R8.4 学部新設)
	国立大学法人山口大学 大学院技術経営研究科長	稲 葉 和 也	
	独立行政法人国立高等専門学校機構 宇部工業高等専門学校 校長	川 村 淳 浩	新 任（代理出席） 副校長 畑 村 学
金融機関	株式会社山口銀行 宇部支店長	滝 本 英 治	新 任
	株式会社西京銀行 宇部地区統括部長 兼 宇部支店長	藤 岡 義 彦	
	西中国信用金庫 執行役員 宇部地区ブロック長 宇部支店長	松 島 隆二郎	
支援機関	地方独立行政法人 山口県産業技術センター 理事長	小 関 浩 幸	
	公益財団法人 やまぐち産業振興財団 副理事長	永 田 明 生	新 任
自治体	山口県産業労働部長	東 泰 宏	新 任（代理出席） イノベーション推進課長 喜 多 和 隆
	宇部市長	会長 篠 崎 圭 二	

<関係者>

株式会社 Blue Water Energy 代表取締役 吉崎 万莉、中井 遥

<事務局>

産業経済部 部長 林 孝之、次長 浜野 直人

成長産業創出課 課長 中角 直人、副課長 田中 耕治、係長 清永 浩幸、主任 山根 朋巳

4 内容

(1) 会長挨拶

(2) 成長産業の創出・育成に向けた取組の成果（令和3年度～令和7年度）

別紙、資料3により事務局が内容説明

(3) 成長産業の創出・育成に向けた令和8年度取組

別紙、資料4により事務局が内容説明

(4) ショートピッチ

株式会社 Blue Water Energy 代表取締役 吉崎 万莉氏が事業内容を紹介

(5) 意見交換

【運営委員の主な発言概要】

【委員（商工団体）】

- ・ 資料3に、令和8年度～令和11年度の市内経済への波及効果見込で、売上が272億円と記載されているが、4年間で272億円という理解で間違いないか。
→ 数字見込の数値は、各企業様が提出された事業計画に基づく金額である。4年間の見込として捉えていただいて差し支えない。（事務局）
- ・ 35億円の設備投資で年70億円程度の売上となると、売上がやや少ない印象である。売上は今後上がっていくという理解で良いか。
→ スタートアップの事業拡大は基本的に急拡大をしていくのが一般的。各事業者からこれぐらい稼げるという見込で申請していただいている。（事務局）
- ・ 市内での雇用の他に、市外で212名の雇用を予定しているとあるが、市外雇用予定人材の市内への取込は可能か。
→ 市外雇用予定者数に寄与しているのは、海外での雇用のため、難しいと考えている。（事務局）

【委員（企業）】

- ・ この5年間の取組について、関係者の皆様が努力して進められてきたことがよく理解できた。
- ・ 中国で量産される製品が世界に出回り、市況が完全に崩壊している状況にある。現在、大きな事業構造転換を進行中である。海外と戦っても勝てるような事業を作っていくことが大きな課題である。新規産業を創り出すことに非常に関心がある。
- ・ CO₂ 排出削減やカーボンプライシングが今後ますます進展していく。まだ石炭火力発電を行っているが、事業構造転換を進める中で、クリーンエネルギーを経済合理性を保ちながら手に入れることも今後の命題である。（株）Blue Water Energy の事業には社会的な需要があると考えている。

【委員（企業）】

- ・ 個人的にはベンチャービジネス的な研究を行ってきた経験があり、成功率が高くないことも理解しており、スタートアップ企業の心意気は非常に理解できる。

【委員（金融機関）】

- ・スタートアップ企業が直面する課題として、資金調達がある。補助金だけでは足りないことが多い。エクイティ調達では Exit が求められる。今年 5 月に「事業性融資の推進等に関する法律」が施行され、企業価値担保権が新たに創設された。デット（銀行借入）の部分でも引き続き支援したい。

【委員（金融機関）】

- ・熊本地震の際に停電が発生し、多くの方が困られた。地震に強い装置であれば、企業や自治体の導入意欲が高まるのではないかと。導入時の金額規模と発電量が分かれば、金融機関としても取引先顧客に具体的な提案ができる。

【委員（金融機関）】

- ・資金調達の支援に協力できる。また、せっかく良いものを作っているのに、しっかりと PR と周知を進めていく必要がある。市内のみならず県内も含めて、合併等の関係でスケールメリットがある。企業へのアプローチや PR について、少しでも協力したい。

【委員（自治体）】

- ・研究開発の初期段階では、売上や設備投資がどうしても少なく、その後に立ち上がってくるという傾向がある。県としても同様の課題を抱えている。
- ・研究開発は 100%成功することはないが、宇部市と連携して、少しでも多く事業化を成し遂げていきたい。
- ・「濃度差発電」は、県の補助金で初期段階の研究開発を支援していた経緯がある。その成果を生かしてスタートアップ企業として起業されたことは非常に素晴らしい。

【委員（大学等）】

- ・成果報告のなかで医学部発のスタートアップがいくつかあったが、いろいろ支援をいただいてありがたい。小さな種から育てていって、少しずつ形になっていくのを実感している。
- ・医学部では、細胞デザイン研究所や AI システム医学・医療研究教育センターを設立している。細胞のデザインに関連して、CAR-T 細胞免疫療法やゲノム編集等に取り組んでいる。これらを拠点として、全国からの素晴らしい研究者たちを集めている。これらの分野からも、近々新たなスタートアップ企業が出てくるのではないかと予想している。
- ・小串キャンパス内には、オープンラボ形式のラボリエを開設した。研究スペースやラボ機能があり、事務所も構えることができる。ぜひご活用いただきたい。
- ・医学分野は小さな研究から事業化に到達するためには、かなりの時間を要するため、少しずつ進めている。宇部市の成長産業の取組にさらに連携していきたい。

【委員（大学等）】

- ・先日、内閣府の「地方大学・地域産業創生交付金事業」に採択された。山口県は化学産業を強みにしているが、その強みを生かして半導体の部素材の開発と高機能・高付加価値化による産業創出を目指

すものである。

- ・大学の常盤キャンパスに「半導体マテリアル教育研究センター」という新しいセンターを新設し、半導体の部素材開発を推進していく。
- ・常盤キャンパスのラボリエには、スタートアップ企業向けのレンタルオフィスがある。大学内にオフィスがあると、教員や学生とのアクセスが良く、先端機器をすぐに使用できるというメリットがある。
- ・国立大学では、65歳で定年退職というルールがある。優秀で世界的な権威と言われる先生であっても、定年退職すると研究室がなくなる。スタートアップ企業の技術開発に対して、大学は責任を持って関与する必要がある立場にある。継続的に企業を支えていくような新しい基準や価値観を大学も取り入れていく必要がある。定年制にこだわっていると、スタートアップ企業を支える研究者を確保できず、共同開発ができなくなる。企業様と意見交換をさせていただいて、次に向けていろいろ検討していきたい。

【委員（大学等）】

- ・特に興味を持っているのが、宇宙利用ビジネスプロジェクトである。情報学部には4つのコースがあり、その中の1つにジオインテリジェンスコースがある。人工衛星やドローンなど空間情報や地理情報システムなどを組み合わせて新しいビジネスを生み出していくものである。
- ・常盤キャンパスのラボリエでは、セキュリティ関連や新しい技術を大学から発信していけるよう、シーズとして育てていきたい。
- ・研究室のドクター学生が就職されるということに注目している。これまでは大学院に行っても、そこで勉強したこととはあまり関係ない企業に就職する人が増えている傾向がある。以前は教授推薦や専門性を重視した就職が行われていたが、今日話を聞いて改めて、専門を生かすような就職が大事である。
- ・山口大学で学位を取られた方が山口県や宇部市で働く、あるいは現地で働いていただくためには、専門を生かすようなモデルが非常に重要である。

【委員（大学等）】

- ・この5年間の成果をお聞きして、医学分野に非常に投資してくださったことに感謝する。医学分野は小さい話から始まるものが多く、ヒットしたら世界を変える力がある。また、機器を作るときに工学部が支えるという形になっている。たくさんのシーズの支援をしなければならない。どのシーズが成長するかはわからないため、このような支援は本当にありがたい。
- ・どうやってアウトカムに変えていくのかという話があったが、はっきり言うと数が必要である。何がアウトカムに繋がるかは不確定な部分がある。ヒットが生まれれば、産業集積の核となる。その種まきをしている段階である。質の高い支援をたくさん行うという事業を続けていただきたい。大学としてはありがたいし、そのような形で進めていただきたい。
- ・化学会社のプラントは熱が必要なため、発熱しない濃度差発電は相性が良くないかもしれない。提案として、データセンターと組み合わせるという方法がある。
- ・(株)Blue Water Energyの装置は非常にコンパクトだが、規模の経済が効くのか。大きくすればするほ

ど、発電効率がいいとか、設備費用が安くなるのか。

→ 設備費用に関しては、大きくすればするほど同じものが不要になったりするので、コスト面として効率は良くなる。一方で、インプットする水量で出力が変わってくるので、それだけ水量が必要になってくるのが現状である。(株Blue Water Energy)

【委員（大学等）】

- ・地元の企業やベンチャー企業、スタートアップ企業が成長することで、卒業生が地元に残る率がおそらく増えてくる。現在、県内の就職が 20%を切っているが、地元の企業に就職させるのはなかなか難しいため、知ってもらおうという取組を小学校低学年から行っている最中である。
- ・将来的には最初の就職で地元就職する学生はそれほど増えないかもしれない。しかし、一旦都会に出て戻ってくるような機会がある。その時に宇部市に魅力のある企業がたくさんあり、かつそれを在学中に知っているというだけでも、かなり大きく影響する。そのような取組を続けていただきたい。
- ・ぜひ先輩アントレプレナーとして講演に来ていただいて、会社の宣伝をしていただきつつ、アントレプレナーとしての素養やご自身の経歴をお話いただきたい。
→ 講演に伺わせていただきたい。また、U ターンの際の選択肢の一つにしていただけると非常にありがたい。(株Blue Water Energy)

【委員（支援機関）】

- ・イノベーション関係でかなり長い期間携わってきたが、課題として感じているのは、研究開発はしたが、事業化になかなか繋がらない、また、事業化してもその後の販路拡大になかなか繋がらないということである。ショートピッチは一つの解決策である。
- ・例えば、いろんな関係者が集まってスタートアップ企業の支援チームができれば、企業にとっても非常に有益である。完成した製品を様々に販売していくのはかなり難しい。地域で一緒になって実証の体制を作れば、それがモデルとなって、全国でも展開しやすくなる。

【委員（支援機関）】

- ・宇部市がその力を活かして、強みを生かして、県内経済を牽引する地域として、技術的な成長産業の育成集積というのは大事な要素である。なかなか成果というのは難しいが、根気強く継続していただきたい。財団としてもしっかり関わっていききたい。
- ・財団には、国や県の委託事業で様々な相談や支援の拠点がある。具体的には経営診断、IT、デザイン、販路拡大、ファイナンシャルプランニングなどがある。
- ・協業に繋がる企業マッチングというのが課題だと言われている。「こういう企業、こういうことができる企業はないか」とか「こういう技術を持っている企業はないか」というような具体的な話があれば、企業紹介もできるし、取引あっせんもできる。
- ・財団は国内外含めて中小企業支援で、どちらかというと経営の観点が強いが、総合的な支援機関である。本当に気軽にお使いいただきたい。

【宇部市長】

- ・委員の皆様から様々なご意見をいただき、今後の課題を認識することができた。
- ・(株)Blue Water Energy 様へも、いろいろな立場からご提言いただき感謝している。
- ・ラボリエ、高専のアイ・キューブ等、大学等が保有している産学連携施設について、地元企業への周知がすすむと新しい連携等が生まれてくるのではないかと感じた。市で周知の準備を行う。
- ・高専の畑村委員から、スタートアップ企業の方への講演依頼があった。宇部市も、中学2年生向けに、うべ未来ウォーカーズといういろんな仕事を体験してもらう企画を行っている。スタートアップ事業者に出席してもらったが、人気が高かった。特に高専の地元就職は、宇部市の経済界にとっても大きな課題である。スタートアップ企業に触れて働きたいと思うきっかけづくりができれば良い。
- ・いただいた課題を庁内で整理し、成長産業の取組がより進むようにしていきたい。
- ・ピッチしていただいた(株)Blue Water Energy の吉崎様、中井様に感謝する。今後も成長産業推進協議会として支援していく。
- ・県の発表している地域内 GDP では、宇部市は 6000 億円くらいである。新しいものを創って GDP を伸ばしていくのが成長産業推進協議会の大きなミッション、アウトカムである。これからも取組を進めていくためこれからもご協力をお願いしたい。

【配付資料】

- ・運営委員会委員名簿
- ・配席図
- ・成長産業の創出・育成に向けた取組の成果（令和3年度～令和7年度）
- ・成長産業の創出・育成に向けた令和8年度の取組

資料1

資料2

資料3

資料4